

平成22年6月16日

関係各位

独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構  
研究管理役 佐藤 義和

選考採用候補者の公募について（依頼）

時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構では、別紙の要領により、以下の選考採用試験の実施を予定いたしております。

・パーマネント研究職員 11名（平成22年10月1日採用）

ご多忙中のところ恐縮に存じますが、当研究機構の研究職員としてふさわしい候補者がおられましたら、是非ご応募いただきますよう関係各位へのご周知をお願い申し上げます。本募集につきましては、当機構ホームページ「採用情報」

（<http://www.naro.affrc.go.jp/acquisition/index.html>）からもご覧いただけますので、あわせてお願い申し上げます。

なお、選考にあたりましては、研究業績などの書類審査および面接試験によることを申し添えます。

## 平成22年10月1日採用 研究職員（パーマネント研究員）募集要領

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構では、標記職員の募集を行っております。パーマネント研究員の採用は、高度な知識と技能を持ち、即戦力および中核的研究員として重点研究領域の先導的役割を担う人材を募集する観点から実施するもので、今回の採用予定ポスト、募集条件、選考採用試験要領は下記のとおりです。

### 記

- 1 採用予定の研究所・研究チーム等（勤務地）および研究内容  
①別表のとおり（複数の公募ポストに応募することも可能）  
②各ポストとも採用予定人数は1名
- 2 応募条件  
①博士の学位を有する者または取得見込者（採用予定日前に学位取得が可能な者）  
②研究職員として採用予定ポストの研究課題を担当するために必要な知識、能力または技術を有する者  
③国籍は問わないが、日常業務に支障のない日本語能力が必要
- 3 提出書類  
①履歴書（市販のA4版用紙に手書きし、写真を添付すること）  
②研究業績報告  
これまでの研究内容の要約（A4版1枚、書式自由）および研究業績リスト（書式例は、農業・食品産業技術総合研究機構の職員採用情報ホームページ（<http://www.naro.affrc.go.jp/acquisition/index.html>）に掲載）。  
③主要な原著論文別刷（5編以内、コピーでも可）  
④抱負（A4版1枚、書式自由）  
⑤推薦書（A4版1枚、書式自由）  
⑥返信用葉書（書類受理通知用、宛名記載のこと）または E-mail アドレス
- 4 書類提出先  
別表参照
- 5 応募締切  
平成22年7月15日（木）（必着・締切日厳守）
- 6 選考採用試験  
①書類審査は7月中旬に応募先研究所の選考委員会が行います。  
②書類審査の結果と面接試験の日程等は、7月中下旬に応募先研究所より通知します。  
③面接試験は8月2日の週に農林水産技術会議事務局筑波事務所本館（茨城県つくば市）で実施する予定です。
- 7 採用時期  
平成22年10月1日
- 8 雇用条件  
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構職員就業規則  
独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構職員給与規程 } に基づき決定します。
- 9 問い合わせ先  
・応募先研究所（別表参照）  
または  
・農業・食品産業技術総合研究機構本部 総合企画調整部  
メールによる問い合わせ [saiyoh@naro.affrc.go.jp](mailto:saiyoh@naro.affrc.go.jp)  
本田 善文（上席研究員） Tel: 029-838-7947  
佐藤 義和（研究管理役） Tel: 029-838-7695

## 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 パーマネント研究員公募ポスト一覧 (平成22年10月1日付採用)

No.	研究所・研究チーム等(勤務地)	採用予定者が担当する研究課題、業務内容およびキーワード	応募書類送付先
1	中央農業総合研究センター 北陸大規模水田作研究チーム (新潟県上越市)	<p>「水稻多収機構の栄養生理的解明と低投入多収栽培法の開発」</p> <p>(1) 水稻多収機構の栄養生理的解明 多収性水稻の収量成立機構について栄養生理的側面から解析を行い、肥培管理改善や品種育成に資する基礎的知見を得る。</p> <p>(2) 水稻の低投入多収栽培法の開発 水稻の多収性に関する栄養生理特性に基づき、肥料利用率や施肥当たり収量が高い低投入型栽培法を開発する。</p> <p>これらの研究を遂行するため、作物栄養学を中心に、土壤肥料学、作物生産生態学を含む幅広い基礎的知識を有するとともに、これに関連した分野の研究実績を持つ人材を募集する。</p> <p>【キーワード】 水稻、作物栄養、養分吸収、肥料動態、物質循環</p>	〒305-8666 茨城県つくば市観音台3-1-1 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター 企画管理部長 石黒 潔 TEL 029-838-8523
2	作物研究所 稲遺伝子技術研究チーム (茨城県つくば市)	<p>「遺伝子組換えによる多収イネの開発」</p> <p>(1) イネ個葉での光合成能力を規定する様々な素過程(光化学系、炭酸固定系等)を解析し、画期的な能力向上を図る上での律速要因を明らかにする。</p> <p>(2) 個葉の光合成能力の向上に有効な遺伝子を探索し、イネ組換え体を用いてその有効性を検証する。</p> <p>(3) それらの遺伝子の利用方法の最適化と集積を行い、個体レベルでのソース能力を向上させた多収系統を作出する。</p> <p>これらの研究を遂行するため、光合成を中心とする植物生理学および遺伝学に関する深い知識・経験を有するとともに、遺伝子組換え技術に精通し、作物育種に関する基本的な知識と組換え作物開発に対する情熱を有する人材を募集する。</p> <p>【キーワード】 水稻、遺伝子組換え、超多収、光合成、育種</p>	〒305-8518 茨城県つくば市観音台2-1-18 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 作物研究所 企画管理室長 寺島 一男 TEL 029-838-8563

## 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 パーマネント研究員公募ポスト一覧 (平成22年10月1日付採用)

No.	研究所・研究チーム等(勤務地)	採用予定者が担当する研究課題、業務内容およびキーワード	応募書類送付先
3	果樹研究所 カンキツグリーンング病研究 チーム (茨城県つくば市)	<p>「カンキツグリーンング病の遺伝的多様性および病原性分化の解明と系統識別法の開発」</p> <p>(1)グリーンング病原細菌の個体群識別用SSRマーカーの開発 100菌株以上の病原細菌の全ゲノム(1.2Mbp)を精査してSSRを探し、個体群を識別するマーカーを開発する。</p> <p>(2)グリーンング病原細菌のレモンに対する病原性因子の解明 南西諸島の病原細菌のレモンに対する病原性は2つのタイプに分かれる。レモンを抵抗性品種として利用する基盤を作るため、2つのタイプの病原細菌を用いて、レモンに対する病原性の遺伝的違いを明らかにする。</p> <p>(3)グリーンング病を引き起こすファイトプラズマの検出技術の開発と発生分布の解明 最近、グリーンング病の第2の病原体として、ファイトプラズマが中国南部で報告されたため、早急にグリーンング病を引き起こすファイトプラズマの検出技術の開発を行い、南西諸島における発生分布の実態を明らかにする。</p> <p>これらの研究を遂行するため、植物病理学および感染生理学の基礎的知識を有するとともに、遺伝解析およびマーカー開発に関する技術に精通し、果樹病害研究の経験を有する人材を募集する。</p> <p>【キーワード】 カンキツ、侵入病害虫、バクテリア、SSR解析、病原性因子</p>	<p>〒305-8605 茨城県つくば市藤本2-1 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所 企画管理部長 村上 ゆり子 TEL 029-838-6450</p>
4	野菜茶業研究所 業務用野菜研究チーム (茨城県つくば市)	<p>「気象・土壌水分条件の変動に対応した葉根菜類の低コスト安定生産技術の開発」</p> <p>(1)葉根菜類栽培における気象条件・土壌水分動態と生理生態的特性の定量的解析 生育モデルなどの手法を用いて異なる環境条件と物質生産・収量・外観品質との関係を定量的に解析する。</p> <p>(2)葉根菜類栽培における様々な気象条件の下での土壌水分・肥培管理の最適化技術の開発 生育モデルシミュレーションなどにより、想定気象条件下での、地下水制御システムなどを利用した土壌水分・肥培管理条件の最適化を行う。</p> <p>(3)葉根菜類の大規模水田への導入による低コスト安定生産技術の開発 農業経営や作業技術分野などと連携して、導入対象経営体に応じた低コスト安定生産技術を開発する。</p> <p>このような研究を遂行するため、露地野菜、または、その他の野菜・食用作物・飼料作物などにおいて、生育モデルなどの手法を用いて、圃場試験・現地試験の生育データと気象条件・土壌条件との関係の定量的解析の経験・実績を有するとともに、経営規模・経営戦略ごとに最適化した露地野菜生産システムの開発に関心と意欲を持つ人材を募集する。</p> <p>【キーワード】 生育モデル、作物気象学、成長解析</p>	<p>〒514-2392 三重県津市安濃町草生360 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所 企画管理部長 小島 昭夫 TEL 059-268-3084</p>

## 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 パーマネント研究員公募ポスト一覧 (平成22年10月1日付採用)

No.	研究所・研究チーム等(勤務地)	採用予定者が担当する研究課題、業務内容およびキーワード	応募書類送付先
5	野菜茶業研究所 高収益施設野菜研究チーム (愛知県知多郡武豊町)	<p>「資源循環型野菜生産システムの開発」</p> <p>集約的な野菜生産の土壌環境において問題となる余剰肥料成分や大規模施設野菜生産で大量に発生する作物残渣等の未利用資源を有効に活用し、資源利用効率の高い高収益野菜生産システムを開発する。</p> <p>(1)土壌に蓄積したリン酸等の肥料成分の有効利用による減肥技術の開発 有機酸資材の点滴灌漑注入によるリン酸の可溶化促進など、新たな根圏環境制御手法による減肥技術を開発する。</p> <p>(2)大規模施設野菜生産における作物残渣の循環利用技術の開発 作物残渣を堆肥化する過程で発生する炭酸ガス、熱等の回収・利用技術や、堆肥化産物の養液栽培用培地資材への利用技術を開発する。</p> <p>これらの研究を遂行するため、野菜栽培、植物栄養、土壌肥料の基礎的知識を有するとともに、栄養成分の動態解析等に必要の化学分析技術に精通し、関連分野での研究経験を有する人材を募集する。</p> <p>【キーワード】 土壌肥料、栄養生理、施設園芸、野菜栽培</p>	<p>〒514-2392 三重県津市安濃町草生360 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所 企画管理部長 小島 昭夫 TEL 059-268-3084</p>
6	畜産草地研究所 資源化システム研究チーム (茨城県つくば市)	<p>「自然エネルギーを効率的に活用する家畜管理技術の開発と評価」</p> <p>(1)複数の自然エネルギーを活用した低炭素消費型家畜管理システムの開発 面積の広い畜舎の屋根を活用した太陽光発電および高効率のヒートポンプを組み合わせた家畜管理システムを開発する。また、家畜の運動エネルギーを利用した発電等の新たな要素技術の開発研究を行う。</p> <p>(2)スマートグリッドを適用したエネルギーネットワークのプロトタイプ構築と技術評価 畜産農家に適した自然エネルギー源(太陽光、大気、地下水、生体など)を選定し、複数の分散した発電源からの電力の流れを調整するエネルギーネットワークのプロトタイプを構築するとともに、システムダイナミクス等による技術評価、LCA等を用いた環境影響評価を行う。</p> <p>これらの研究を遂行するため、施設・機械の設計・制御、システム工学および環境影響評価手法の基礎的知識を持ち、関連分野での研究経験があり、幅広い分野の技術・知識を応用して家畜管理技術の開発研究に主体的、意欲的に取り組む人材を募集する。</p> <p>【キーワード】 自然エネルギー、ヒートポンプ、エネルギーネットワーク、LCA</p>	<p>〒305-0901 茨城県つくば市池の台2 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 畜産草地研究所 企画管理部長 寺田 文典 TEL 029-838-8616</p>

## 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 パーマネント研究員公募ポスト一覧 (平成22年10月1日付採用)

No.	研究所・研究チーム等(勤務地)	採用予定者が担当する研究課題、業務内容およびキーワード	応募書類送付先
7	食品総合研究所 食品分析研究領域 分析ユニット (茨城県つくば市)	<p>「食品およびその原材料の分析法の開発と標準化」</p> <p>(1)栄養や食の安全に関わる無機元素等の成分の分析法の開発、妥当性検証および標準化 (2)元素の含有量や同位体比に基づいた農産物の産地判別等の食の信頼性に関わる分析法の開発、妥当性検証および標準化 (3)食品や農産物の品質に関わる成分の分析法の開発、妥当性検証および標準化</p> <p>これらの研究を遂行するため、化学の基礎的知識を有するとともに、化学定量分析や質量分析技術に精通し、関連分野での研究経験があり、食品分析分野の研究に意欲のある人材を募集する。</p> <p>【キーワード】 食品、農産物、無機元素分析、安定同位体比分析、栄養成分分析、産地判別</p>	〒305-8642 茨城県つくば市観音台2-1-12 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 企画管理部長 森 勝美 TEL 029-838-8002
8	食品総合研究所 食品素材科学研究領域 糖質素材ユニット (茨城県つくば市)	<p>「バイオマス糖化酵素生産菌の改良および糖化酵素生産・利用技術の総合的開発」</p> <p>(1)酵素生産時における微生物特性を解明することにより、バイオマス原料や前処理物に応じて糖化酵素カクテルの最適化および微生物特性の改良による酵素生産特性の改善を図る。 (2)バイオマス糖化酵素生産糸状菌の酵素生産特性に基づき、可溶性基質を用いた連続ジャーファーメンター培養システムを開発する。 (3)上記糖化酵素を用いた効率的バイオマス糖化技術を開発するとともに、バイオマス変換工程へ導入する。</p> <p>これらの研究を遂行するために、糸状菌の生産するバイオマス分解酵素の機能解析及びその遺伝子発現に関する基礎的知識・経験を有するとともに、ファーメンター培養技術に精通する人材を募集する。</p> <p>【キーワード】 バイオマス糖化、セルラーゼカクテルの大量生産、ジャーファーメンター培養システム、地域型糖質バイオマス産業創出、セルラーゼ生産糸状菌</p>	〒305-8642 茨城県つくば市観音台2-1-12 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 企画管理部長 森 勝美 TEL 029-838-8002

## 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 パーマネント研究員公募ポスト一覧 (平成22年10月1日付採用)

No.	研究所・研究チーム等(勤務地)	採用予定者が担当する研究課題、業務内容およびキーワード	応募書類送付先
9	北海道農業研究センター 低温耐性研究チーム (北海道札幌市)	<p>「ゲノム情報等を活用した低温苗立性に優れたイネ育種素材の開発」</p> <p>(1)既存マーカーによる育種素材開発 既に発見され単離されている低温発芽性遺伝子の塩基配列情報に基づく高精度DNAマーカーを利用し育種素材を開発する。</p> <p>(2)新たなDNAマーカー開発 多様な遺伝資源をスクリーニングすることにより低温伸長性に優れる素材の探索を行い、QTL解析および高精度マッピングにより低温伸長性に関与する遺伝子を同定・単離し、その塩基配列情報に基づく高精度DNAマーカーを開発する。</p> <p>(3)DNAマーカー選抜システムの高度化 最新のゲノム情報を最大限に活用して、低温発芽性・低温伸長性以外の農業形質(穂ばらみ期耐冷性、出穂期、耐病性等)をも含めてホールゲノムで効率的にDNAマーカーを選抜できるシステムを構築する。</p> <p>これらの研究を遂行するため、分子遺伝学に関する基礎的知識があり、DNAマーカーの作成・利用に熱意を持ち、ラボ試験から圃場試験までの一貫した研究を主導して実施できる人材を募集する。</p> <p>【キーワード】 水稻、低温苗立性、分子遺伝、QTL解析、高精度DNAマーカー</p>	〒062-8555 札幌市豊平区羊ヶ丘1 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 北海道農業研究センター 企画管理部長 氣多 正 TEL 011-857-9256
10	東北農業研究センター 寒冷地飼料資源研究チーム (岩手県盛岡市)	<p>「リビングマルチを活用した飼料用大豆の省力的栽培管理技術の開発」</p> <p>基幹的な高蛋白質自給飼料として期待される飼料用大豆の省力的栽培体系の確立と普及を目的に、牧草をリビングマルチとした無農薬栽培技術を核として、被覆植生との競合下にある大豆の生育特性や土壌の適合性等を解析し、飼料用大豆の省力的栽培管理技術の開発を行うとともにその技術的指針を提示する。</p> <p>(1)リビングマルチ用被覆作物と飼料用大豆の光競合と養分競合に及ぼす各種栽培要因の影響の解明</p> <p>(2)リビングマルチが飼料用大豆栽培下の土壌の物理性と理化学性に及ぼす影響の解明</p> <p>(3)上記の研究成果をふまえた飼料用大豆の省力的栽培管理技術の体系化と技術的指針の策定</p> <p>これらの研究を遂行するため、作物栽培学、土壌学および植物栄養学の基礎的知識を有するとともに、大豆等の畑作物や飼料作物の栽培管理技術にも精通し、生産現場における栽培試験等の設計・実施能力を有する人材を募集する。</p> <p>【キーワード】 畜産・草地、高蛋白質粗飼料、リビングマルチ、飼料用大豆、栽培、土壌</p>	〒020-0198 岩手県盛岡市下厨川字赤平4 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 東北農業研究センター 企画管理部長 松田 長生 TEL 019-643-3403

## 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 パーマネント研究員公募ポスト一覧 (平成22年10月1日付採用)

No.	研究所・研究チーム等(勤務地)	採用予定者が担当する研究課題、業務内容およびキーワード	応募書類送付先
11	九州沖縄農業研究センター 九州畑輪作研究チーム (宮崎県都城市)	<p>「暖地畑輪作体系における大規模土地利用型の業務・加工用露地野菜栽培技術の開発」</p> <p>(1)夏作のカンショ、サトイモ等と冬春季野菜の品種選定及び播種・移植時期の適正化などにより、作期競合がなく、土地利用率の高い輪作栽培技術を開発する。</p> <p>(2)大規模野菜生産を可能にするため、低コスト省力(機械化等)作業を前提とした栽培管理技術などの露地野菜栽培体系を開発する。</p> <p>(3)野菜の安定供給を図るため、温度・養分等の生育環境改善により低温期の発芽安定化や相対生長率の向上などを図り、労力分散と収穫期の平準化を可能とする栽培技術を開発する。</p> <p>これらの研究を遂行するため、作物生理の基礎的知識を有するとともに、土地利用型野菜栽培技術に関連した研究経験を有し、広い視野で研究を意欲的に遂行できる人材を募集する。</p> <p>【キーワード】 栽培生理、栽培管理、大規模省力型野菜生産、暖地畑輪作</p>	<p>〒861-1192          熊本県合志市須屋2421          独立行政法人          農業・食品産業技術総合研究機構          九州沖縄農業研究センター          企画管理部長 土肥 宏志          TEL 096-242-7680</p>